

史系

生糸種紙之儀を清國等
 物ニテ外國貿易ハ勿論産業上
 潤澤利益是ニ續物無之
 朝廷ニ於テモ度々は布告有之
 清國語江を在る交ヨリ一般ニ
 奉テ注目致シ近年國ノ艱乏
 道相関ナキ事ハ申込候事一因

和県文化会
 3.7.30 初
 40568

A630
 78



烟箱居は羨ニ有リ然ルニ宝港心算ハ田
畑工桑葉植付ホ石相米天保ノ飢饉
ニ金ヲ懐テ餓死セリト云是穀物而已ラ
先スルノ故ナリ又為時ハ世無ホナリ
質易上ニ利益ヲ先スルヲ多ヤ假ハ一反
畑工田字ノ形ニ桑を植ナハ障リナクニテ
作拘ヨリ素ノ力有テ益アルニ既外國

▲序ノ一

法交際ノ困ニ羨拾五州アリ随テ質
易上盛大ニお成文明日ニ開化進歩
ニテ彼我能ヲ取贅ヲ省キ國民奉テ
不益ヲ培植スル法詭吝ニ有リ既ニ生
糸種糸ヲ以各州交易上金高凡
同等ノ由ナリ先蚕業ノ徳ナレハ其
元少ナトナハ國民一戸ノ奮發ニテ勉

ヨリ始リ扱亦右種年々穀歩枚繰
 出お米お得共法蘭西品ハ其界隨一
 ニテ年々輸出種其年ハ法蘭西風
 生立少級ニ法得兵登年々玉り皆其
 團々飛々變々甚夕不恒是非年々
 法蘭西品輸出ナリテハ其支隨テ生糸茂
 良品少米其被加價別テ直直ナリ實ニ

一節ノ二

皇國之名産世界ニ赫然ナリ夫在蚕業
 之後を厚ク法學活らわき後ニ有る
 去トテ右例立方ヲ始メ其根ナクニテ一所ニ
 得共實おるナリハ其相米又蚕業ニ送
 込ルル其美ハ其之ニ分是迄ニ其蚕業
 村々一先ツ飼料ニ素ラ植付其の
 中ハ亦らお約おるナリテ飼立并製

糸々送械ホニる雲泥く得失有テ
夫が者蚕ハ不熟智系ハ廉悪其後失
不ナド然ニ處享和年同但方上垣
守固ナルモノはをラ所飛くそ善蚕
妙福ト申書ラ著一積年ト昔モ
考時モ産理くそ便利ト送械モ出
来れ方守固編輯ラ元ニくそ於

當所ラ参考一童業男女の見安
かんタメ画を加一程一層盛大ニ相
利潤燃業セらんたの志ク著述
後ト説諭およびお今リ悔リハ一生
に怒リ一季ト後ハ悔とも不及ノ理ナレハ
篤ト相所へ誰ノ益ナルヤ皆所くそ為ナレハ
速ニ古習くそ石智奮費勉強くそ一家

隣家一村と隣村に石炭掘一
般競て出稼し、
於實地ニ歩リ工
風の致者也

愛知縣

壬申 八月

廳

養蠶仕法玩諭録

目錄

蠶神祭の事

神蚕異名并蚕数品の事

蚕種見様の事

蚕種毒忌同貯様の事

種子と寒水漬の事

桑子植様の事



桑樹と作て有益の事

桑取木仕様の事

桑諸道具の事

桑小油の事

神桑種目桑葉の用心の事

附 桑を防の事

桑小毒忌の事

桑家作仕様の事、附 屋敷善悪の事

桑生出る寸心得の事

家初椽と以て桑掃落は法事

桑若芽と以て桑掃落は法事

桑小大小不の心得の事

心得遠少て年々桑不の事

桑柳子之居起手入との事

桑棚立様并桑風と揚の事

家内陽氣加減の事

寒^{かん}氣^きと凌^{しの}例^{れい}の事^{こと}↓
 蚕^さ盛^{せい}の時^{とき}分^{ぶん}霖^{りん}雨^う凌^{しの}た^た例^{れい}の事^{こと}↓
 蚕^さ暑^{しょ}氣^きを凌^{しの}例^{れい}の事^{こと}↓
 庭^{にわ}の岳^{たけ}紀^き子^こ入^いの事^{こと}↓
 蚕^され若^わ惡^{あく}并^な病^{やまひ}見^み様^{よう}の事^{こと}↓
 蚕^さの徳^{とく}と福^{ふく}有^あとらり^りの事^{こと}↓
 天^{てん}竺^{ぢく}霖^{りん}異^い大^{たい}王^{おう}の事^{こと}↓





人皇廿二代
 雄略天皇
 の后素と
 夕のて
 自ら蚕を
 養ひまふ
 半
 日本書紀
 小足〜〜り

聖徳太子
 茶搦の
 政を輔け
 民を憐れ
 貴蚕の
 術を
 教ふる



蠶神祭の事

或人神道者小問云諸國小蚕神を
 あづかんもの神一體をば何と
 神とまつりて是なん問答云夫神
 を不測の沙ともしゆまセバ何れの
 神少ても崇信至誠をば諸邦小造て
 感應ゆすし事なかりと云
 今問よゆてあづかんを論ぜど

天照皇太神保食神天照皇太神保
 食神ハ天地陰陽之神也
 大日靈尊ト中ナリ天上道を多ク
 又保食神ト中ニ陰トシテ地ノ御神
 始稚産靈尊ト中ナリ又保食神ハ
 倉稻魂命トモナリ此ニツレ別号ハ
 三寶荒神トモアガメ奉ルナリ凡テ人



蚕神祭
 の圖

天照皇太神
 保食神

間を以ててはよむず禽獸虫魚草木も
 皆は神体より生出づ物は人のいけらしと
 やうまよ最上の草もろがゆ名よ輪魂乃
 みのさる付も美民肌威ふらけ
 周家あさまらびあよ本よりよい世の根と
 了畧浩なり又本よりよを籠家の義
 かり寶中よりやを田かよりよ刑なり
 神代は神田とたぐへ苗代は叔孫と芽



蛾の雌雄を撰ふる
 図

を出し養蚕とてえは村稚産霊の神に
うさどりのまよ又苗と元神田ふる名くは
まりとまぶつる村保食神つうさどりのまよ
秋よゆりすでにみのる村倉稻魂神つう
まじりのまよ又稻荷大明神やまの河がな
つて三義ゆりの苗代に叔れ生りつる村と
稲荷大明神と号しとてふみのりて
かりおさむる村稻荷大明神とすん始ま

熟をりてを飯成大明神とあがまらるるん
回依来名よして河と流るるさどるまよとらあ
神法よりてかく名づけなまらり五穀なり
より養蚕の道をへ流いて邪風消除起法
盤昌とさすせまし御神なれは娘蚕大明神と
わが先ゆりてなまらり又娘蚕小午日と吉日
やす午の河よとら日て日中陽の満る河にせ
村さる稲荷大明神のあふふまけ日とらつて

萬機の政と輔け民と何れも之を養蚕の術と
 として之を以て事舊事本記小見へり
 太子曰蚕とや一六父母の赤子ととなつ
 ぐふや一蚕とてふ事我子とてふ事とせよ
 寒暖陽氣の加減平生我身分ふりひて温
 常に冷るべ平和るやう陽氣とめぐ
 昼夜間断なく精力をばくけしを
 たすよ 古に賢王惠と萬世にたるとるまひ

民の産と制し后妃みけく素と採り養蚕は
 道に婦人の業たる事とさし一より貴き法身
 だよかくせさせよ法やちりりしれ者をや
 ちららむけん勢のまん有へうらざる業なり

晋楊泉蠶賦の解

凡物の生と交る一唯是陰陽の氣和し交
 して生むるなり卵をて生むるもの皆纏綿し
 て自然に其氣内ふるなり就中蚕は其功大

なり上み天子后妃乃盛服せいふくなり下しも庶民しよじんの
服ふくなりて貴賤きせんの品しんとす月つき交まとり月つきて王者
なり人其功そのこうとた月つきとみ三官さんくわん主人しゆじん世婦せふの潔いさぎよき
そのとめとて宮中きやうちゆうとて表あらわ蚕さんの法はふとまれむせら
すなり二月にがつふなり庶民しよじん小令せうれいとて蚕さんを相あえ
先またすひ中春ちゆうしゆん庚午かうん日蚕神さんじんとす月つきとすなり
仰おほて種たねハ清浄しやうじやうなる虫敷むし敷のううふはりて乞こ小蚕せうさん
母ははとりて心こころ正ただしき婦人ふじんと附つ室むろとりて守まもるを

たよりとくや三月さんがつふなり種たねとす月つき中ちゆうの
日ひふありてああひぎとと去さて仰おほて晞ありて
温ぬくやあ蚕室さんしつと仰おほり蚕さんの生なとす月つき時とき到いたり
まば東方とうほう少すくて去さ月つきなり柔なき素すと拵しなせ
其用そのもち意いとああしむ仰おほて眠ねり茶ちやハ素すきひ
く仰おほて起おこす時ときハ仰おほてとやあひ蚕さん蟄じく
て兄あにゆあ其仰そのおほて時ときハ龍りゆうの雲うんのを望のぞふひ
く仰おほて肘ひざハ虎こハ洗せんふふり身みと園まふふと

夜ハ淨じやうなり日ひと文ぶんもばたらたらまらまら登天とんてんの
勢いきほひと存ぞんハ又また巢すうふかくかくままんんととままるる時ときハハままとと席せきと
作つくりり蚕室さんしつ小入せうにひ夕日ゆひハ陽氣やうきととふふせせぎぎすすで
小せうああととぐぐくく繭まゆややななれれをを蚕神さんじんにに造酒ぞうしゆととささく
げ家内けいだいハ交きやうなりなり近隣きんりんののままででももううららより
ててここととふふききととななりり蚕室さんしつハハ風かぜとといいとと繭まゆととか
ままううとと又また蚕母さんぼももたたととぶぶららとと髪かみとと結むすひひ仕し振ひらな
どどとと繭まゆががくくううととままららてて繭まゆととささくくと

け初はつりりかかくくハハののままやや何なにののままぐぐとといいままななくく塔たつと
ううたたいたいたももむむききををててややととああむむ事ことハハああんん又
世月よげつハハ帝ていハハ大宇たいうとといい礼らいととりりひひ多たいい寝廟しんべう
ををいいくく法ほふ先せん祖そハハ法ほふ殿でんハハ繭まゆとと献けんととささを
ままいいとと後ご絲しととととセセ孫そんハハ又また后妃ごうひハハ三さん盆ぼんとといい
ままるるままききとと獲とく小せう絲しととりりたたままひひてて主人しゆじん世せ降からん
どどとと家け敷しき多たのの宮女みやうにょとといいととハハいいととななままをを
りりととままよりより下したつつとといい民たみハハ婦ふ女にょハハいいととななままをを

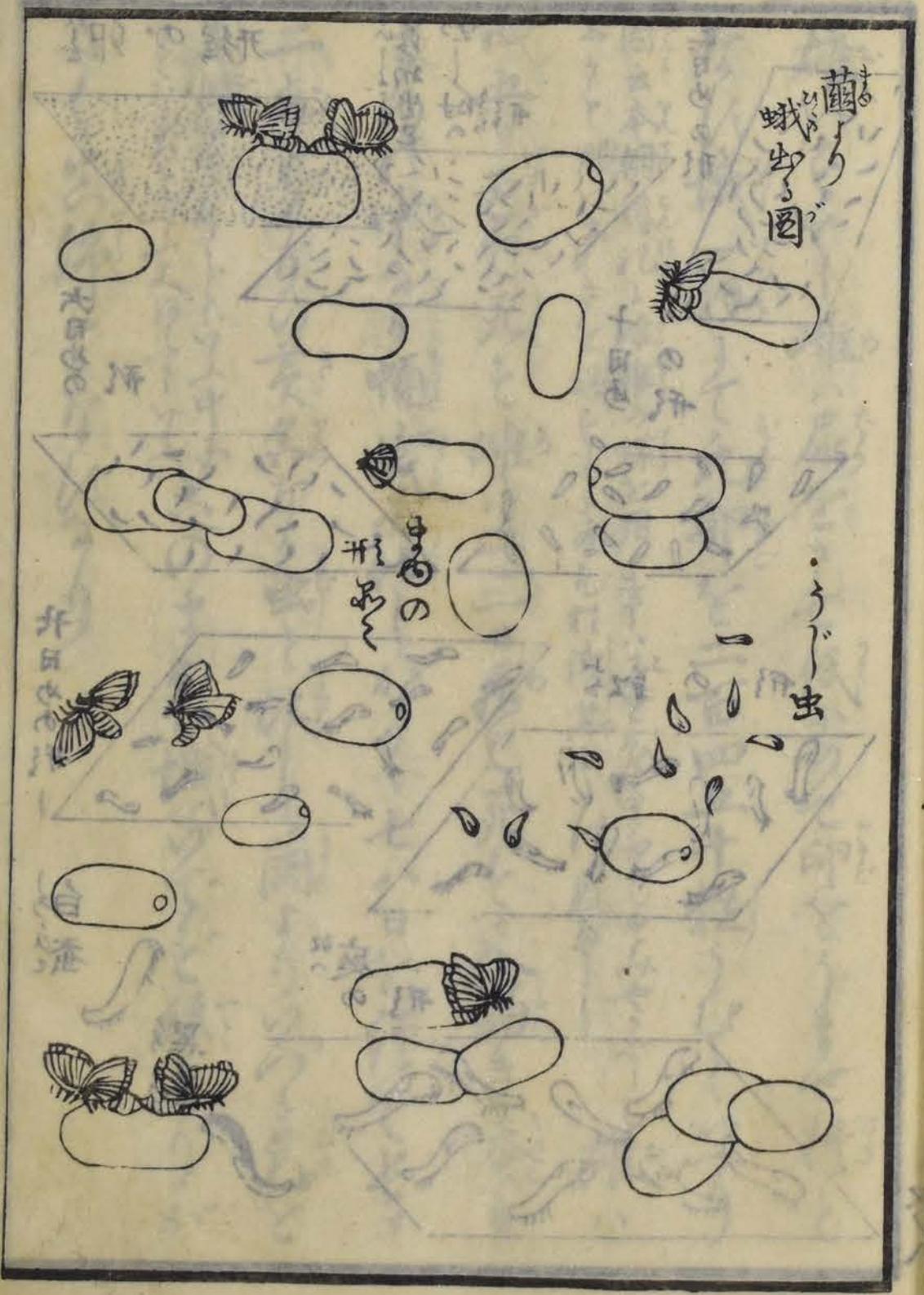
農事のいふゆゑ蚕とやをひ織縫の作業
をして老たるりの帛と衣帛を寒がるは海
小此道よりとをなり

神蠶異名并蠶數品の事

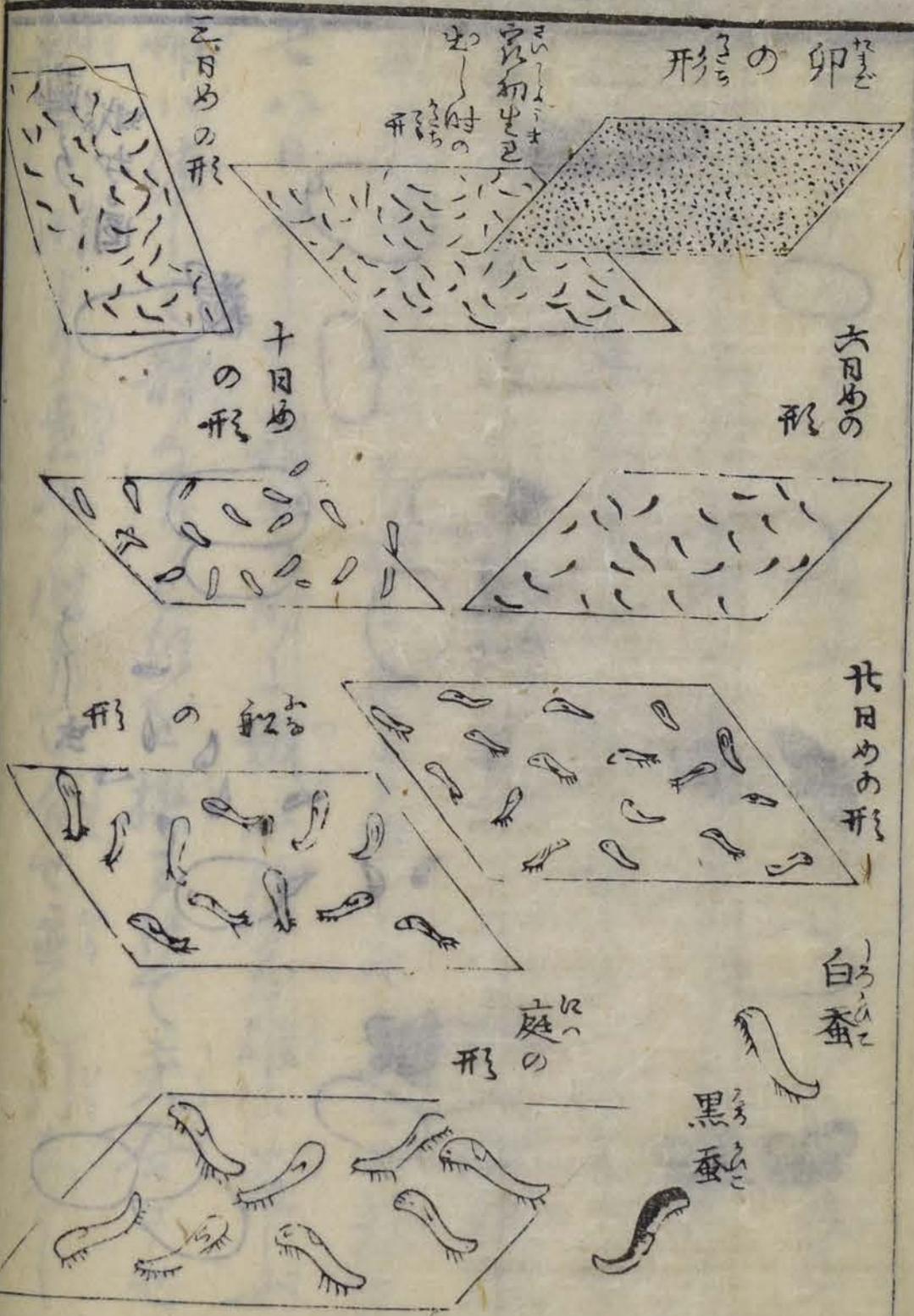
原蚕と晩蚕とのよゆと夏蚕とのよゆといふ
魏蚕熱蚕とのよみ夏蚕の異名なりこれ
二番に蚕とて再び繭を作し周禮は原蚕は
禁むるは夏蚕と繭とぞ一年小素蚕と二度

採るに夜ぬれ芽だらりと素樹大きふりこ
損むるふりて夏蚕と禁むるなり今本朝
小ものをうぬ下の白繭蚕は四度時り四度記
き日數三十七日より四十日餘やしてまゆとに
るる蚕は頂は國字のい乃字なり又黒斑をの
蚕なり又黄なるまゆと似る蚕なりこれ
きんちやよゆとゆと厚夏とよ白に春蚕なり
二十日餘やして繭つる是はまゆのはうま

糸もよそし十日候中にて梅生だこれ夏蚕
 ね親なり夫乃まゆゆ少て梅と出し夏蚕乃
 種をとく又夏蚕よて種とひるせハ明年の
 妻片なると白蚕は種出る凡繭は長短図
 角尖等のがらりる蚕まゆとなりて日数十
 七八日やして朝五ツ時よ城にば家雄ハ飛ぶ
 雌ハ俯して静まりこれを撰りけて交合させ
 朝五ツ時より至八ツ時まで合せまて引さる



卵の形



雄ハまてて雌ハ尿をさせ紙小のセ卵をうまを種と

なり城一ぬて凡卵を二百四五十粒うじくいり

因云本朝婚れは雌雄の蝶と用ふ本ハふと養ふやあてをみやうして

ありと能れ多きを種とるものれ種者よりけぬが雄ハ

四五のころて死を雌ハ二三日居て死を又弱き蚕を

すゆれ中なる蛹蛾ふけがく七八日を終て生ナ

二歩もりのの美なる虫とけし蘭よりつづきと

東國をいふ中ふ六のすゆに城をぞと絲よりが

く生綿やなひより

蠶種子見様之事

種子を法に採りて面一様にして生氣を
卵の中少し含み種を地合よく作り候乃
ちこころに種のりしよく悪きやほひなく取
り月よ下種落ど紙にまく死つきしと死上
とまぐし種ととりふ城を撰分りき城
まぐし名づけて撰半一城と上中下とに分
たりよに城の種はらむとありあしき城の種

を下率くまぐしを種の色は其土の精氣
種より形なり赤土に素とてやしき
種より赤とてなりすし黒土の素とて何
ふ時は種より黒とて常ふ赤土の素と
蚕の種は枯梗色とて種より霜降
めく尺由まぐしを種れりよかそとて何
まぐし地面よりまぐし筋れ場とて素と
ひり何方の本法とて月とてまぐし蚕の上蘭

何てぐひよるに不^まあ^まれ武^ぶハ^は移^{うつ}元^{もと}何^{なに}もを
ふ^ふハ^は何^{なに}の^の長^{なが}紙^しハ^は控^{くわ}分^{ぶん}ハ^は寒^{かん}暑^{しょ}ハ^は雨^{あめ}ハ^は風^{かぜ}
雨^{あめ}の^の時^{とき}ハ^は不^まあ^まれ^れ由^{よし}ハ^は何^{なに}も^もの^の事^{こと}一^{いつ}ツ^つハ
て^てり^りさ^さたり^り何^{なに}も^もが^が移^{うつ}蚕^{いと}り^りと^とより^{より}
か^かど^ど改^かめ^め移^{うつ}え^えと^と検^{けん}査^さし^して^て上^{じやう}移^{うつ}を^をり^りし^し
ア^ア愚^{おろ}なる^{なる}人^{ひと}ハ^ハ理^りを^を去^さる^るハ^ハ蚕^{いと}の^の音^ねも^も
年^{とし}の^のり^りを^を金^{かね}に^に入^いる^るハ^ハ人^{ひと}の^の身^みハ^ハ是^{これ}大^{だい}
なり^{なり}滑^ひる^る也^{なり}蚕^{いと}ハ^ハか^かど^ど入^いり^りけ^けり^りその^{その}の^の移^{うつ}文^{ぶん}

なり一切^{いっせつ}ハ^ハ草^{そう}木^{ぼく}ま^まど^ども^も皆^{みな}親^{おや}不^ふ知^ちる^るもの^{もの}の^のり^り
た^たハ^ハ移^{うつ}移^{うつ}ハ^ハ移^{うつ}を^を極^{ごく}く^く其^{その}ハ^ハ折^おハ^ハま^まく^くづ^づが^が
や^やハ^ハ又^{また}移^{うつ}の^のり^りふ^ふより^{より}て^て悪^{あく}移^{うつ}あ^あく^くも^も相^あ惡^{やく}れ^れ
蚕^{いと}と^とり^りハ^ハく^くも^もり^りる^るづ^づけ^けと^とも^も是^{これ}を^を其^{その}年^{とし}れ^れ也^{なり}
ア^アよ^よて^て悪^{あく}移^{うつ}あ^あく^くま^まハ^ハお^お惡^{やく}の^の地^ちと^とも^もれ^れを^を移^{うつ}や^や
上^{じやう}移^{うつ}を^をり^りも^もて^て何^{なに}も^も一^{いつ}移^{うつ}移^{うつ}の^の上^{じやう}地^ちを^をり^り
ま^まかり^{かり}ま^まり^りハ^ハあ^あぐ^ぐら^ら移^{うつ}子^こハ^ハ甚^{しん}ん^んか^かり^りの^のり^り
あ^あく^く口^{くち}は^は移^{うつ}ま^まり^りハ^ハ四^よ度^どの^の長^{なが}紙^しづ^づり^り素^す責^{せき}素^す少^{せう}



種子見分
同

しれ間あひらゆし大ねとん換益あきのくままなり
 蠶種こごも毒忌どくじ同貯たく様さやの事
 種子たね求もとての紙袋しざい入いとききこのぬぬややに
 てあよりあ望ぞく年ねんれれ春はるまでま冷ひやまま市いち小こ約やく重じゆう屋や
 一ま種たね一いち身み一いち沖おき氣き地ぢ多た多た茶ち粉こなのの紙し袋ざいのの紙し
 茶ちや麻あしのの衣い襟えり大だい毒どくなりなり又また琴ことよよ掛か籠かごへへん
 河かのの虫むし性せい性せい子こ小こ包ほうむむとと大だい丸まる一いちのの燈とう
 のの上かみつつつつ種たねをを蚕くわ出いだだすすいいつつりり懸かけけてておおるる

蚕種
行ひ重
図



ひつり記とのふ入癒る次日の當り不焼火の邊
所へおくるを熱くしてきてあきき自ひとつむ

種子を寒水に漬く事

燗と寒水に漬るは芥一毒氣を抜ためなり

又一法は性弱き卵ハ生息ハ性強記との中

出る有蚕生氣強くともよ又明歲五月嵐

の時痛少くともより所より漬ざるまより

水に漬る時ハ大鹽水を入漬る

五月より
終る

桑苗
栽了
図



此の又紫小く多し股多て実と多くむきよ
 桑皮割糸くし下し農業全書小出たり又
 上桑の實を採とりても悪き紫れ糸多く出
 来るとのなりと魯糸と化は法ハ能糸成
 見定め五月中に若桑の實黒くよく熟した
 りと採り種ふと皮包し椀を本の本生を悪し
 糸生と種いやりて椀の両端をサしぐ切捨て
 心中と種よを袋に一実の仏先或ハ根れ皮赤を

の物いゝ素なりぐー根の色白に素是とよと魯
桑く知ぐー又葉にましく少き虫つき素れ是素
をましく事いり是と急入密く丸さう細ぐー然
らざるを桑以るひりのあり

桑樹を作り益り事

昔小四本三草五本八草やてあり桑を四本
一少して名本なり素れ地をやうハ厚敷
鳥り岩の上のひい畑お下て耕地もなり

がく地を栽てせま本なり又川沿を砂土
うそて川除やひいそとを土を砂土を
よし水氣あふを栽て栽れをうてれ乃成を
やし素蚕の樹を栽て園をいひい
地を聖とて川沿り山奥より之を出谷
地をいひい蚕とやしてひて桑太の川沿と
いひい尚書大傳云天子諸侯必云桑蚕
室ありや云云支蚕ハ何園少ても多く女れ業

ふして男子れよと費さん耕地れ力小勉
てあつり大金と得か事、漸く農氏の助成
國家と潤を才一たふ了、異國少ても五畝宅
樹之以桑とぞ以りあつり、以て是とせよ
休むを、其代多く無用の草木生、預り流小空
地、やなるもまげうも、ま事あ、どや、終もさ
戸番ハ畜方、小極多、多く、多て、むつ、り、り、の
多と、ま、育の口、はと、知、大、い、つ、つ、に、せ、大

た、り、換、失、河、ぶ、し、又、畑、方、切、者、の、人、を、年、に、利、極
と、得、よ、の、財、力、少、て、田、畑、多、く、持、り、ひ、も、其、代
を、初、ま、き、た、ま、し、と、富、貴、百、倍、な、る、一、家
も、し、程、が、く、れ、ど、い、と、ん、や、一、村、一、郷、の、く、の、ぬ
く、り、り、せ、バ、富、田、方、ふ、あ、あ、と、て、固、中、こ、う、ふ、あ、り
中、一、春、和、志、と、く、減、小、理、子、少、氏、の、急、務、中、
理、り、也、
一、桑、植、つ、け、方、を、先、化、う、う、や、も、家、の、ゆ、ゆ、も、先、を

根素くとりぬ根際より伐りゆ方素のお
おひらきよりく流敷も多く絶てぬれ
降りよあ相平す

一 桑苗栽む方ぬ毛の代号以人括は畑の也ハ

一 畝或ハ二畝ぐぬふは切株自下す

一 伐ぬる株より新芽出育切ゆた葉よりそ

はぬ望年芽は節より解下下す

葉のいこも且作ぬ夜中よりおぬ

一 桑苗実性位之に成ハ五月末蚕中よりく

熟下ハ実をとりて洗ひ淨し肉と取り橙

をとり取揚よくなす地指しより五月

下旬前つけよ入と次芽きて三四月より

本望年株自相成之法桑実繩く括はけ

よりのとに時より繩繩のよりく念つけ

てまよらしきり

一 春八十八夜前後蚕出り所より大霜より素は

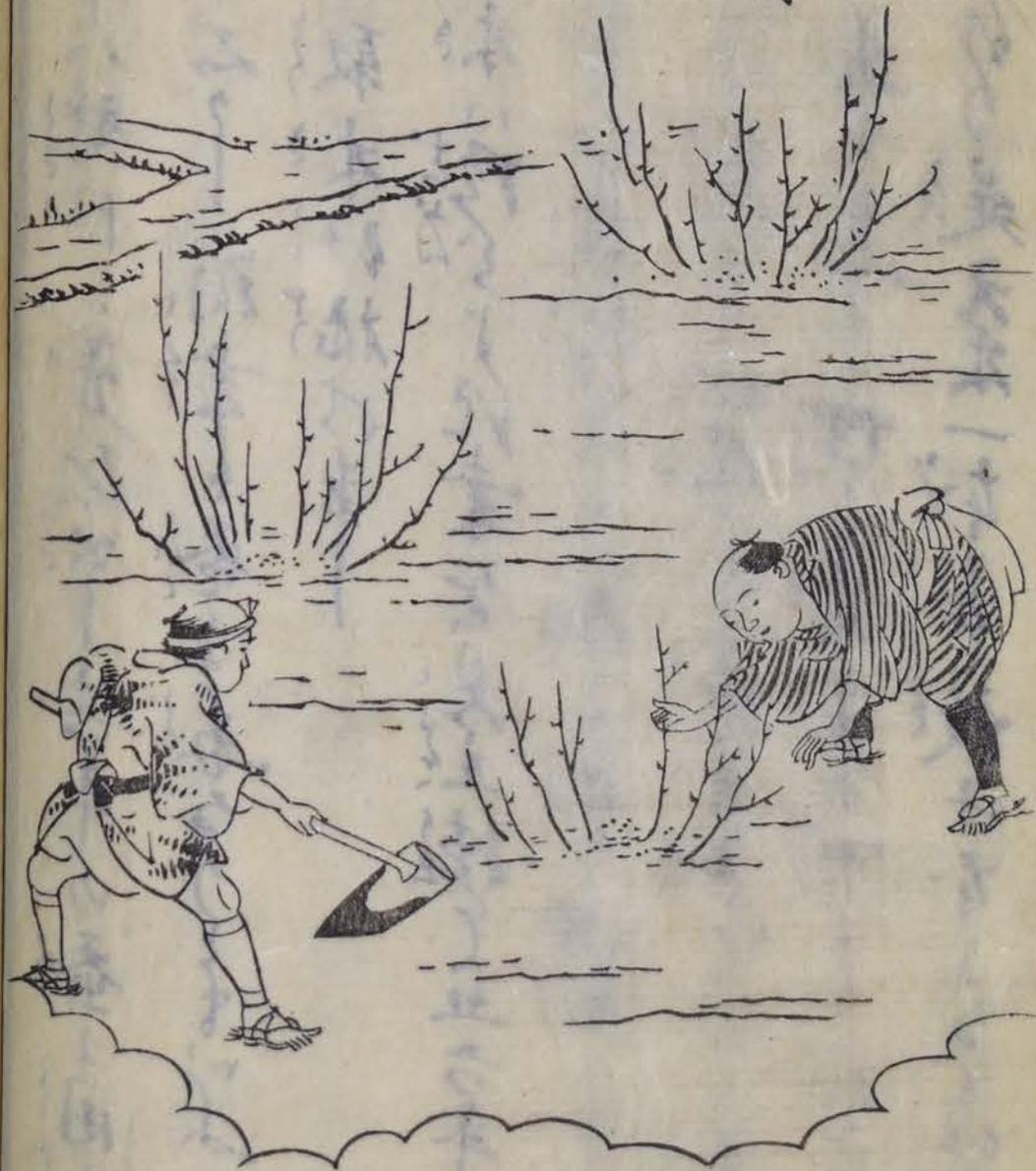
芳いこと枯く本仰りりそ付の候の事
自ぬくお解桑の精字とて入る一付
分知自とくく桑素の芽つとていさよん又
日流の赤いまご精氣の激るべしうらふ乾日
つりつけ桑素とけ。原も芳やぶるがゆ
痛むなり相子と乾素ふさびく水とくら
くれどいさみうくくそり又素の根と深
りて下葉とをさへ入るより然るめを痛

素四十八時目よ芳をさし其年の蚕は困立
ゆ一とく痛素を毒と毒うりまもいよ
桑取本は様は本

素の取本は様は本
ぐらななると寒れりり春より地回より
伐とけ並ぐ一切株より若芽多く出る是
小産の葉とをさし埋し若芽の所より根を多
く出とめり是え本一本とて数十本よりのは

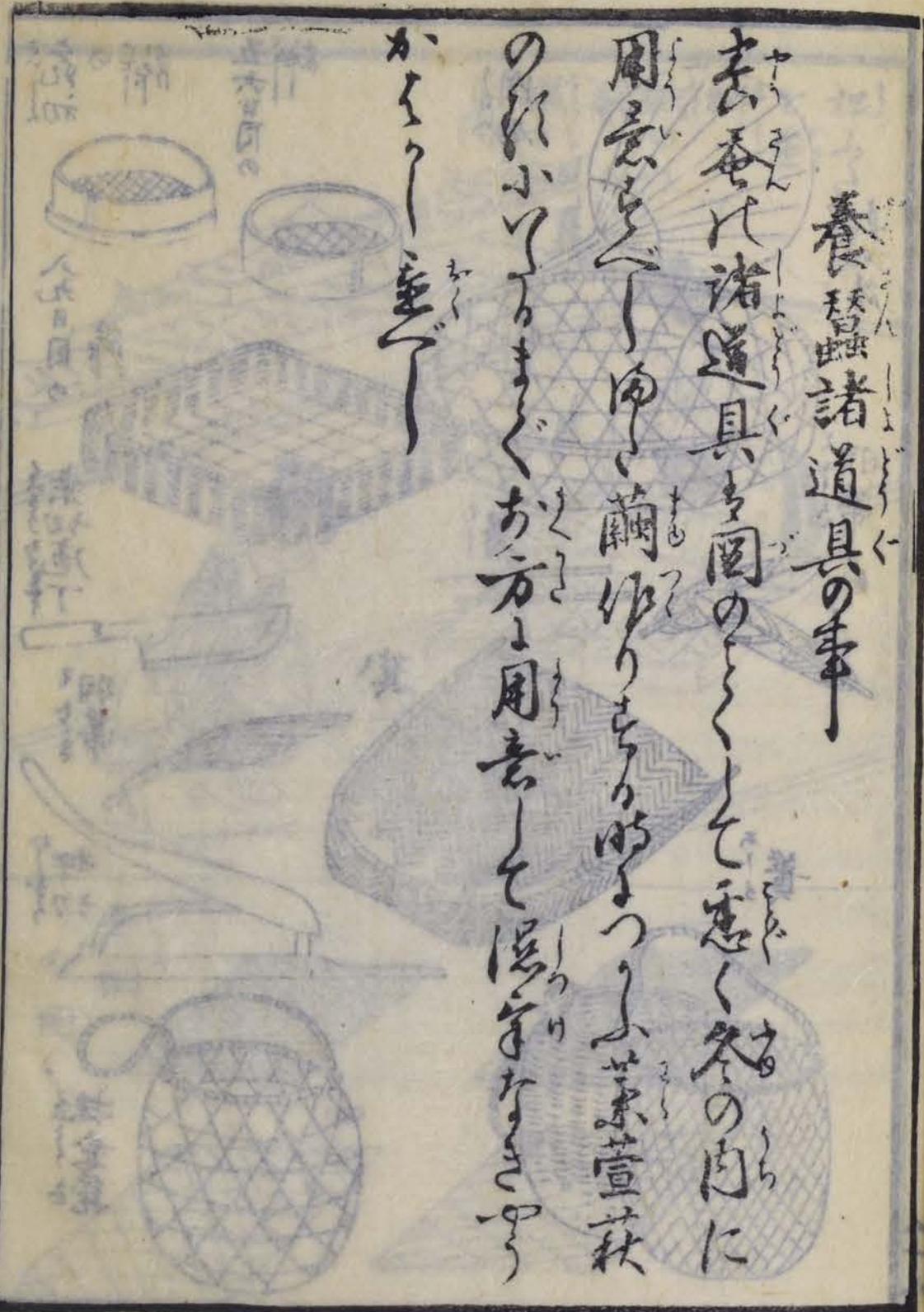
取本

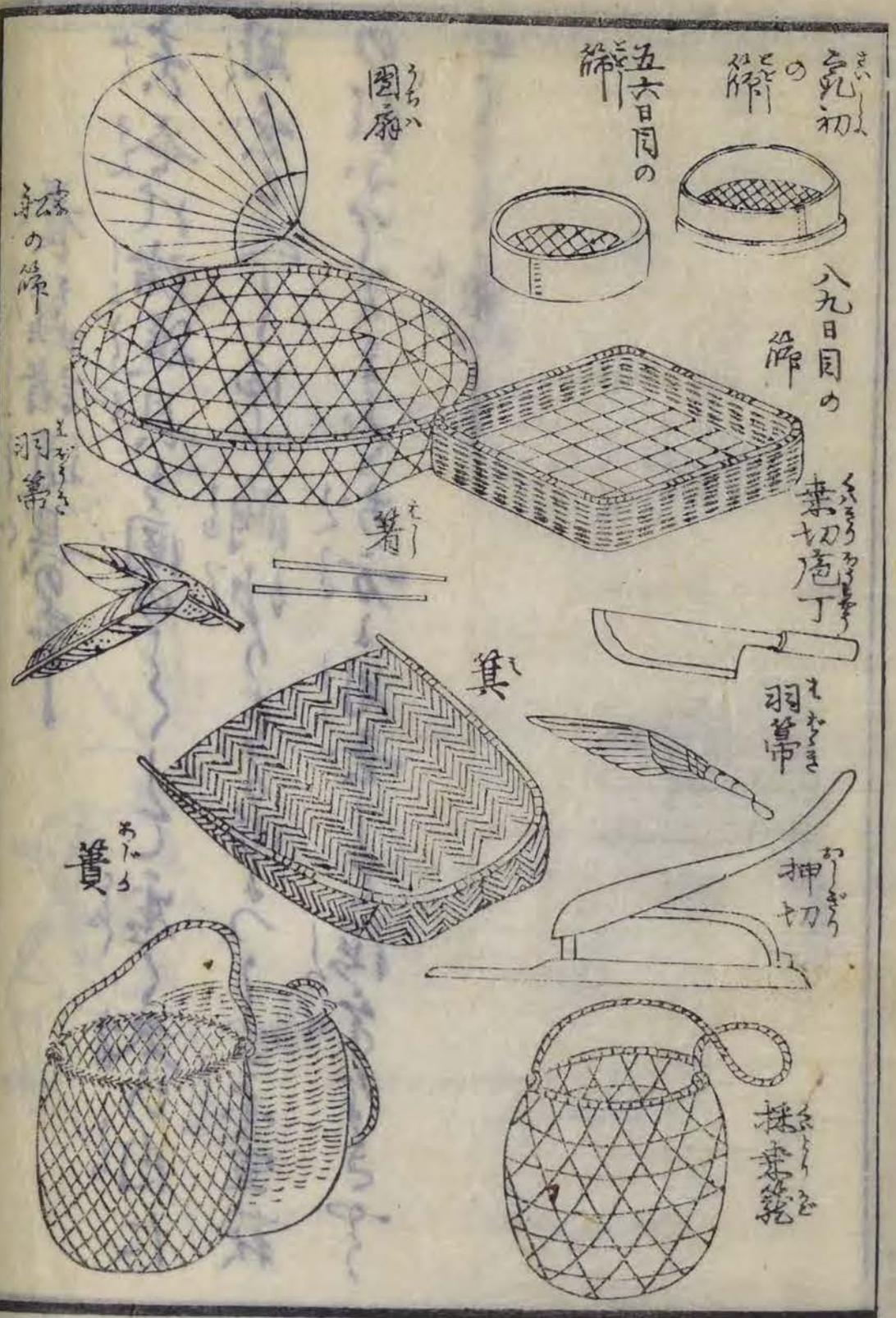
十の圖



養蠶諸道具の事

去春に諸道具を圖の如くして悉く箱の内に
 用意をてし申し繭作りをみるゆゑつゝ小葉萱萩
 の花小つゝるまきぐち方し用意して袋をなまきや
 かきくし進了





扇の篩

羽笥

箕

五月の篩

八月の篩

葉切庖丁

羽笥

押切

提籠籠

扇

箸

箕



松子と松葉の小葉
職の振分

蚕糸の図

二

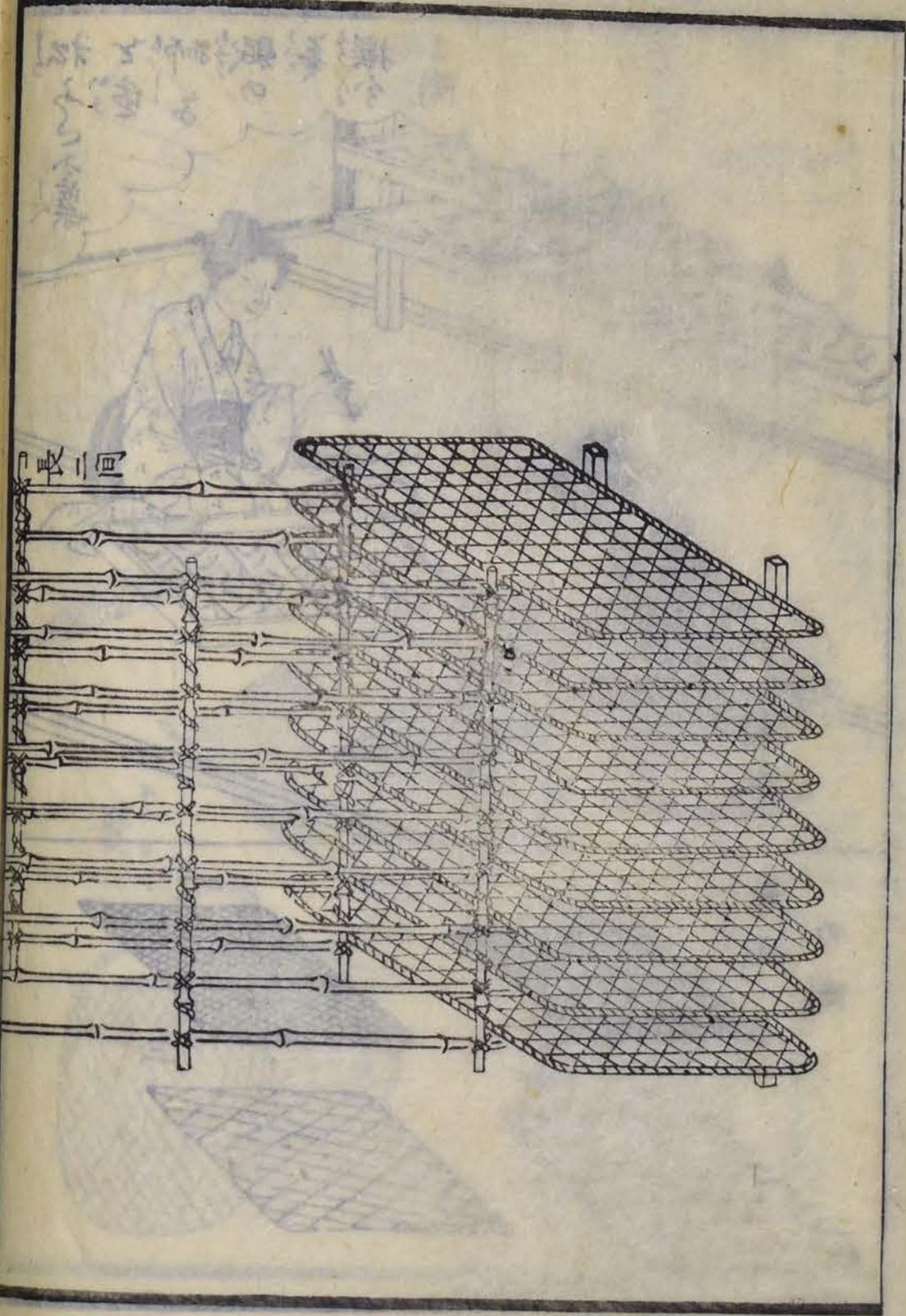
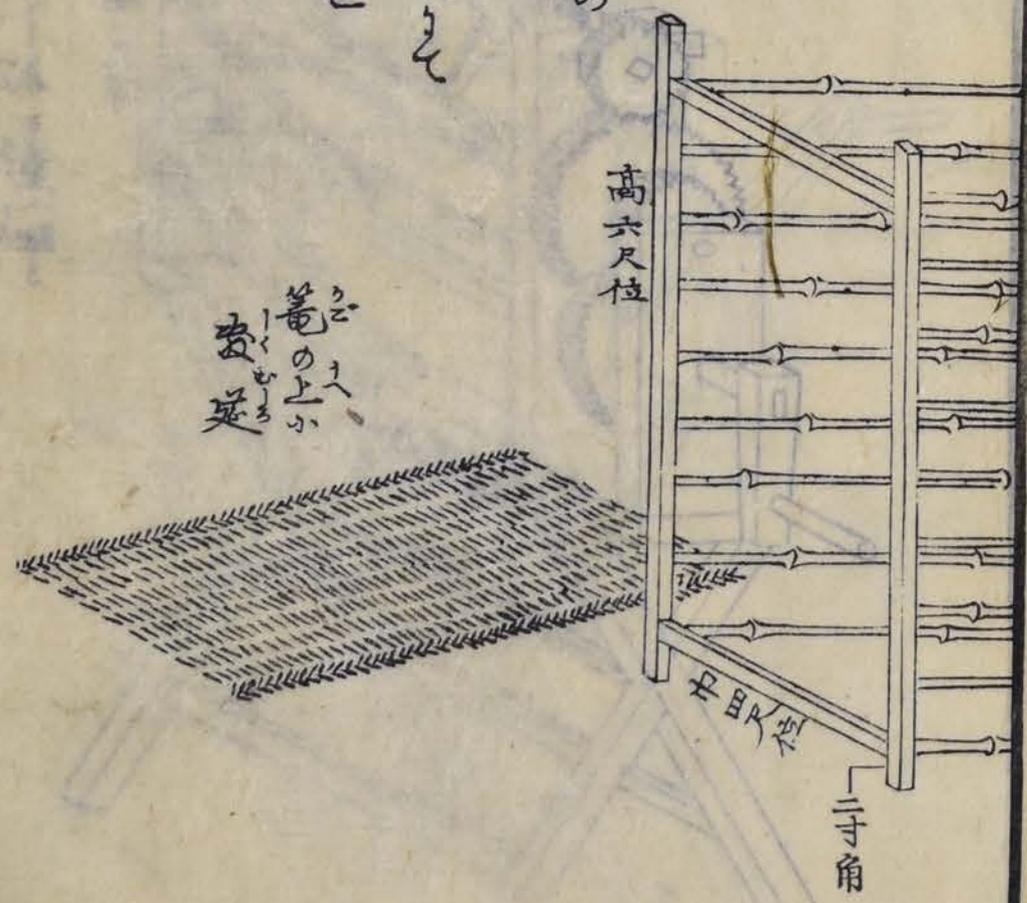
一

四

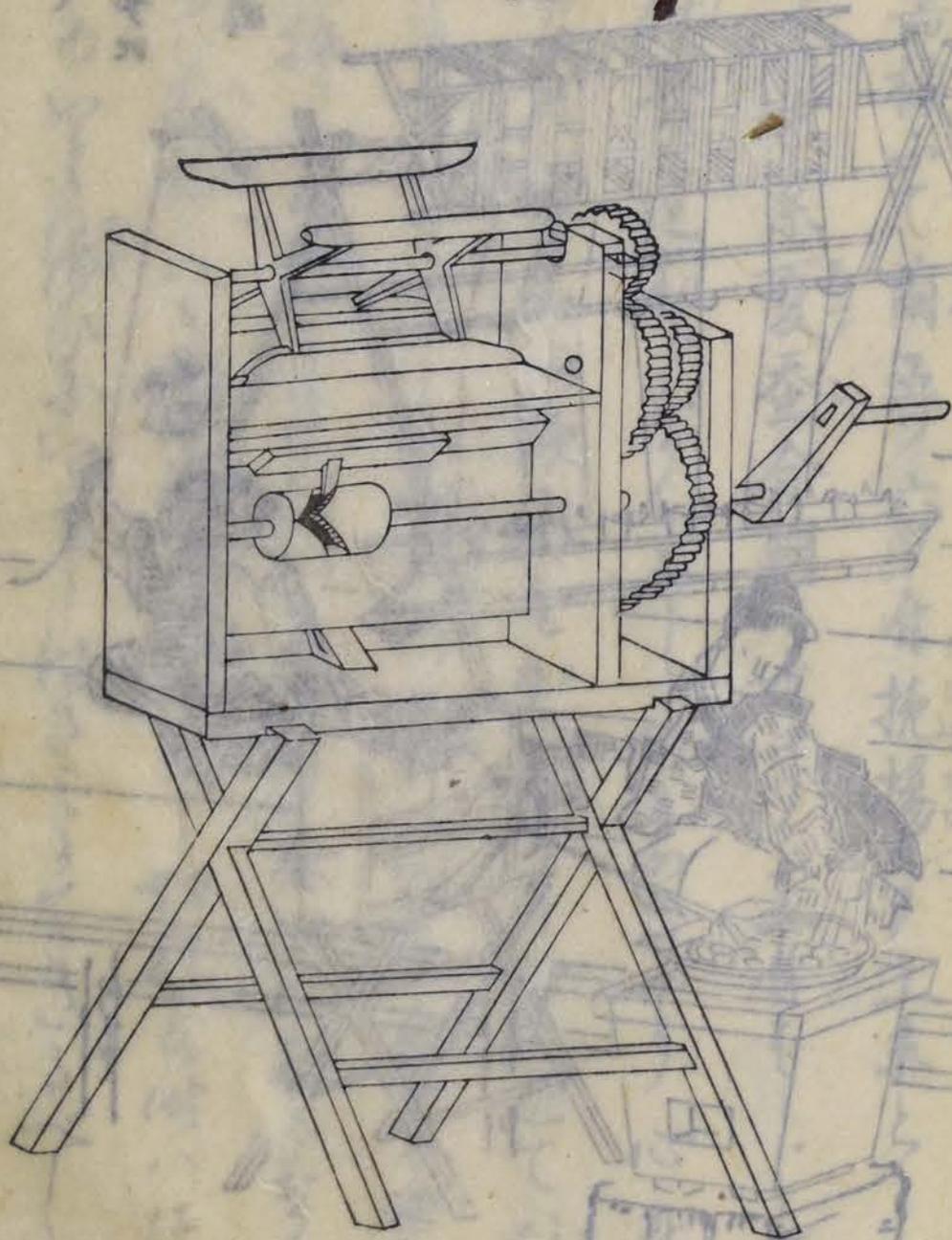
三

此圖ハ八尋の間にて
 筒を積りあり
 一尋ハ竹の皮實地籠の
 如く編まじ半
 廻りの編残りの皮實地籠
 はより細る丸竹を入き
 巻仕舞ひあり

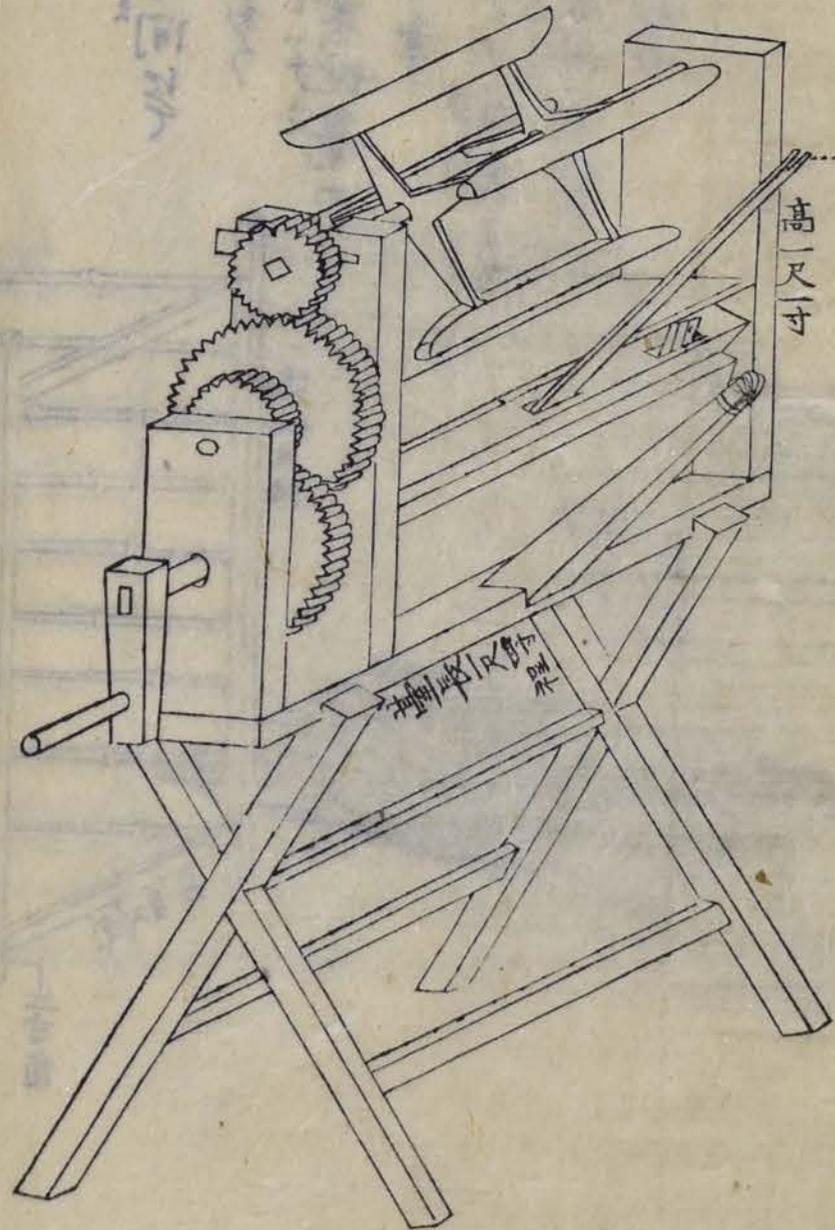
籠の上
 安延



裏



表



高一尺一寸

此竹車の巡り廻り随つて左右へ自由と
あり糸と篋へ配る

此竹車は
自由と

器械にて
糸を引き
大棒に
揚ぐかへは回



右に器械きかりいして繭まゆ五ツ六ツ付挽揚いさあげル上糸と
 七ツ八ツハ中糸夏蚕なつこ合繭ハ十ヨリ十一付もどめ
 より仕舞しまい近ちかむがなぐや一のなきやう心付
 いとらふれ出来ぬ換水とかへて一す處て引
 ろとよくかきりー雨天うてん乃節せちハ別命べつめい念ねんと入處し
 一系大棒へあげてハ引まうり念ねんわれむがなぐ
 了勢せハ大棒たいばうハまねぬとの也り切れ長時ハ注
 ぎめいと結びおいてハはこもてこもて

おのちあぢこころいふいと見えきり直段より
—かゝるる

一蘭ハ先ツそ糸と煮よく水と替清水入五を糸ヲ
そ合ツ十度位金入魚—

一系挽鍋ハ鉄鍋ハ沸けぬとやく糸乃た先より
—からん土溜の—とよ糸—煮事

一系大梓へ揚ケ糸節ハ朝早クか夜亦入揚ケ之
勢ハ糸をよく出来は也屋中北風亦ある

糸揚ケは得も糸目消滅してはしり雨天と糸
糸小梓かまのさ糸と何あれ糸さく糸
甚ぶ嫌事—

蠶小油断をゆき事

武里よ蚕成を置下とて小成なき一時的向
大損と人ありし得べきとありむしを所の

百姓苗代に初種とす記かきりよ朋友来り互小
田の畦よ腰とけやまみわたりし思をば長
新よたり登後まで括て立寄りまより残りの
初とす記海りし朝時し初を苗代芽立能
登おす記し初も芽立をよりよとてしや
是は三月の以初種と水漬を好苗代と極く
この種と水よりつけ能種よりをきし時右の初種
をいづく芽と出をゆりゆけとたぐへど田よすく

履きこと忌^{コト}芽^メの弊^ヒ糶^カを田^タの^ノい^ハぜよ^ハ宜^{ヨク}日^ニ
ふ干^カつ^ケく^ハ在^ニ若^ニ芽^メ蠶^ニく^ハい^ハこ^ト其^ノ年^ニ太^クま^シよ^ハ
ふ^ハ心^ニせ^ハし^ハなり^ニ甲^ニさ^ハや^ハ蚕^ニ生^リり^テ食^スる^ハ
虫^ノう^レぬ^レぞ^ハ少^クし^ハ此^ノ間^ニも^ハ変^ヒり^ハか^ハづ^キ事^ナり^ニ
蚕^ハ掃^初初^ノ日^ヨり^タと^ハひ^ハ親^扶縁^方なり^トも^ハ
蚕^ノ脚^ノ上^ニ写^シる^ハ若^クは^ハ味^畧なり^トも^ハた^ハび^ハ不^断
ま^シく^ハ少^クし^ハ後^ノの^ハな^キ私^ハ大^切お^振り^テい^ハふ^ハ
四^五十^日斗^リれ^ハ勉^強な^レば^ハ昼^夜を^ハと^テ蠶^シて

育^フツ^テ禮^記月^令云^ハ禁^婦女^母親^者婦^使以^テ
勸^蠶事^ヤハ^シる^ハ此^ノ心^ナり^ニ然^ルハ^ハ愚^ナり^ハ若^クも^ハ
一^所よ^ハあ^らじ^きり^ハ無^益の本^漸よ^ハ時^を移^リ俄^ハあ^ら
ま^しく^ハ素^とと^らる^ハま^しる^ハい^はひ^ハ素^レ接^ス
た^らし^ハる^ハ月^ノや^りて^ハ又^ハ桑^のの^ハい^はひ^ハひ^ハま^しる^ハ
あ^らじ^きか^ハや^りに^ハ味^畧の^ハ伺^方し^テふ^ハ心^ナれ^ハば^ハ年^ノ
の^ハ廻^リが^ハ寫^のの^ハ聖^ノに^ハま^しる^ハま^しる^ハ減^ハし^ハか^ハ
あ^らじ^きの^ハなり^ハか^ハや^りれ^ハず^ハ蚕^のこ^ハま^しる^ハ

物くびれ心得づき事なり

神蠶種同蠶鼠の用心をき事

附前を防事

蚕種をよめて風の好むなり
前を通すの事
所く約さぐ一六七月より寒の
入まをいりて風
よ當はぐ一所よりて寒三十
口標を軒り約
風よさく大國よりり家内よ
前多く来りて
通ひたよりんやぐむとま
りつけ盡は前来り

らぐりよ又方の以はを多
く紙ふつて是を前
のかよ所へをさぐりて来
るはぐりよ又山より
れ本よりよ計のよ本より
このを
なごおまより一美み物
ても山よりぬけを風の
かよよ所のをみぐふ前
の好むと合事よ前を

蚕よ毒忌あり事

芥一多歩粉の粉糞つきたる
素山柙の少ゆい

此氣地字深の本胡桃の本杉の本れ逆所に
あゝ素半馬の糞けくる桑うらむらと焼く熱
しく思き白ひのよれ焼くべ武いの前もど
とあき身ひの真肉又ハ糞なぞおをれを急
ぎ戸と閉ア又蚕糸淨まけそ赤糸あり
まゝ半身ゆくうり或を俄よりけて死する
半ゆり此時を粒上のゆと桑ふ吹くけ喰ひ
又云蚕初き子れ付長サ二歩斗の虫多く出

来蚕と吸ひとりをゆあり
けく時を川魚又海魚の鱗なると桑れ苞よ入
蚕の傍なる高き所よりさへ下波黒虫臭き
白ひよ集り苞へたうなるりそ付おふ苞を丸
をきおをふおゆき虫と拂ひ又そののまは約
定敷なもとうぐ一え来此虫に字き羊一にそ
少く暖なる羊よ多き一是ハ蚕の尻びなや
子後いよバ多くこくうり例年蚕出ふ多し

室内とよしく掃除さぐすは虫掃のトあり
れども下より生ずしく見えたり

蚕家作は掃き事 附屋敷善悪の事

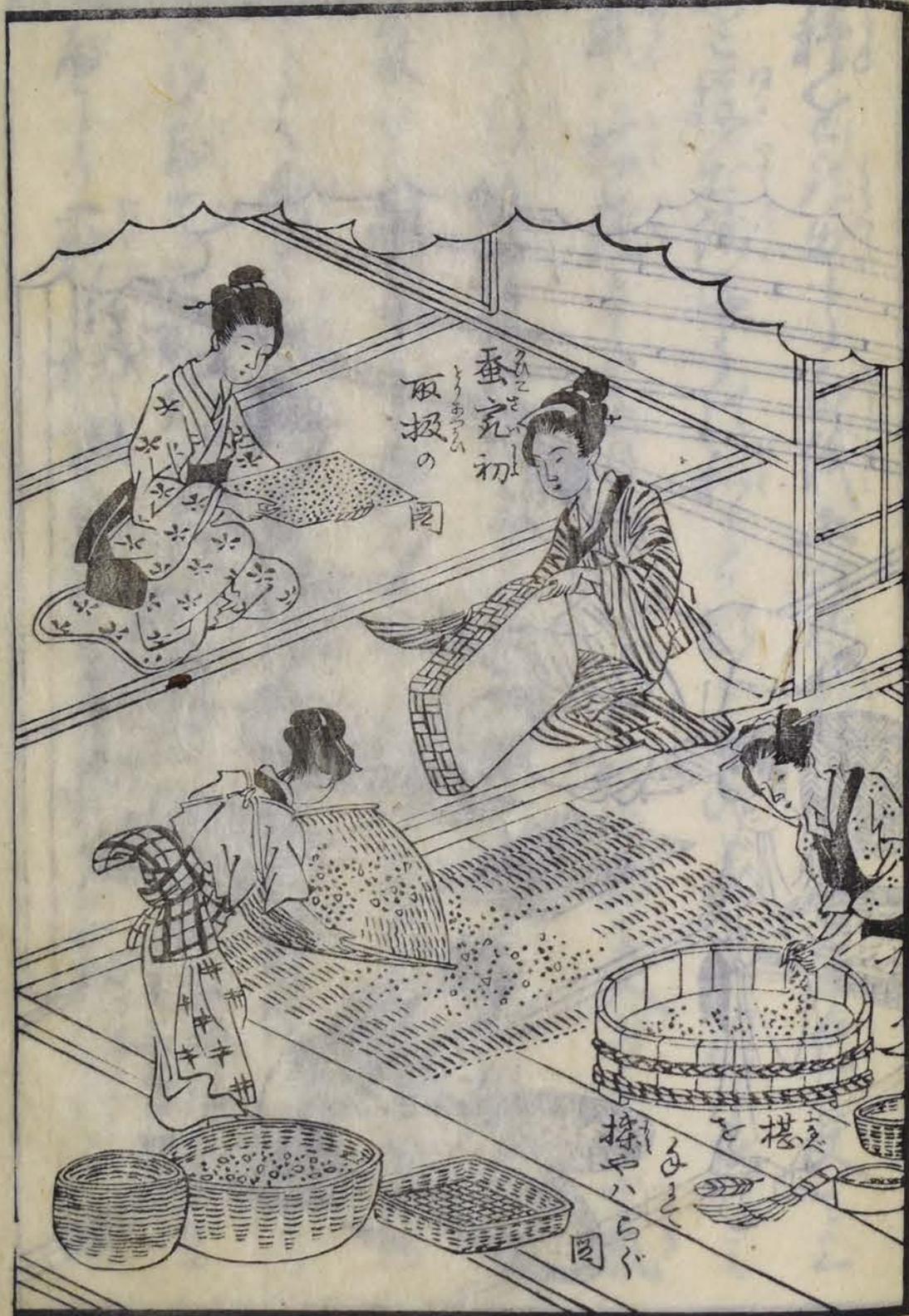
家作は亦一者愚と除く掃き事よく作ふ
之は風抜れ穴まきこゝ窓多し東面北戸と明
了南戸北戸と明何とす戸の明間自中よま
る日日照るむい甚悪し元来掃き四方乃
陽字醒く於五ツ時をまきこゝに掃き清きこゝの

たり室孔の掃き事より暖ふより八ツ時より蒸くや
りくたり西の家のまきこゝありて夕日の火を
小蚕を以てあちを掃き事同くあふたり
は屋敷の西の方へ掃き事とう名て夕日れん氣成
みせぐア一まきこゝをまきこゝて蚕の屋敷を
引とす又紙を掃き事掃き風の引成
心先む掃きこゝはより事烈し陽字を掃き
時に掃き事なれを室内の掃き事同くやん

て養蚕を以て一熟して蚕ふり終る其道と業
やまらるる一心の働きの業なり春も苗代風を
以て時より北風吹かして寒きよりをりく
まへて蚕も知き時を以て痛むべし向てや
りて神蚕を産むより性悪くならんべし
室はよもつとまざるやどのつと終蚕を後
知事より一より家の陽氣加減を覚る事
て大切の事なり

蚕生も出浴時に得の事

春ふり其年先出にせんや一種を以
岸中日前後小取出し氣れぬやうにして
前後の高低を拘りおくる是れを
のを以て速速に減らす一種の上や
糸を以て一日替りよ上りて拘りて
ゆき二階裏を以て上りてなれども温冷
のたぐひありて種の上よりなる事



蚕子く出らるなり壳角一様より蚕り一度ふ
 き月をゆくゆくは加減をづたり肝要の河まの
 ちしむとも八十八夜を存よ、蚕生をゆふなり
 此のたききこして日の照るよ並河の山は遠なり
 入まこ八夜若痛あよつこ或は火の迫りよを
 急し移を暖のそ程よ出さんそはる事、甚悪
 し天性自然よまうせして種に皆青いつき蚕
 少く出らるるを登の九つ日、暖なる時をん合せ

焚^た了^りし^は又^も逆^ささ^して^は煙^{けむり}草^{くさ}の^しじ^りん^どの^しら^いぬ^りぬ^り
も^も思^{おも}へ^ば蚕^{かい}と^も掛^かけ^たい^ふふ^と洗^{せん}ひ^の洗^{せん}ひ^の
と^とぐ^り洗^{せん}ひ^の洗^{せん}ひ^の蚕^{かい}物^{もの}を^もあ^らわ^せば^ば燥^{かわ}か^す
也^{なり}

取^と初^は椋^まと^りて^は蚕^{かい}掃^は落^おは^しは^し事^{こと}

蚕^{かい}初^はの^りより^も素^す糸^{いと}を^もと^りて^は青^{あお}の^しら^いぬ^りぬ^り
春^{はる}蚕^{かい}物^{もの}の^しら^いぬ^りぬ^りを^もと^りて^は素^すの^しら^いぬ^りぬ^り
年^{とし}の^りに^も付^けて^は素^すの^しら^いぬ^りぬ^りを^もと^りて^は素^すの^しら^いぬ^りぬ^り

椋^まと^りて^は素^すの^しら^いぬ^りぬ^りを^もと^りて^は素^すの^しら^いぬ^りぬ^り
素^すの^しら^いぬ^りぬ^りを^もと^りて^は素^すの^しら^いぬ^りぬ^り
燥^{かわ}か^すに^も付^けて^は素^すの^しら^いぬ^りぬ^り
又^{また}箕^こを^もと^りて^は素^すの^しら^いぬ^りぬ^り
り^り用^{もち}意^いを^もと^りて^は素^すの^しら^いぬ^りぬ^り
又^{また}し^しを^もと^りて^は素^すの^しら^いぬ^りぬ^り
又^{また}し^しを^もと^りて^は素^すの^しら^いぬ^りぬ^り

寛和の節、いさぎよき歩に方目ぐつめとめらめ節
押香九ツ肘ふ波色一蚕とやう中一河の窓とて
土座ふ早梅の掃掃とよ記好よ又合せありてそ
とよ紙とあ波掃一掃又一切糸にても窓の度よ
ゆり窓其うへふ生とたる蚕種家ハあ掃と圓乃
ゆくよ二人ぞお紙のうらまひ細き考とりつて
あ月かよほしくと波き窓の中へ蚕とあをよとべ
し或い窓肘ぐよ一書出と掃落さば其日乃

夕方よ二書出と掃ぐ一あ日ふ生と一蚕成
望りよとら越く掃付とそ蚕何やど子練
とほく一書ふとも窓の紙より変出とそり
とけく蚕六其百切よ掃丸て出よと一又蚕成
おとてまけハ出かりの蚕がくふ了むと一そ
ふ掃とて煙紙よ取つきたる蚕と随分静ふ
お程とて窓へ掃入とそ素をかげんとく掃うけ
掃くと八方へ塵けうとくす塵一以付掃と枝の

蚕凡三天四方ぐるおむくなき中うに落くを
池一窓ハ河そも好多ハ以分蚕と蚕をれ
合ぬ中うよ蚕ぐ一初日極なる一日ハ二三日喰
せ業の切紫あぶ一日お口お食喰まぶ一これも
晴あそそ少ハ此加減のえ一まよりあ一暖な
多ふと上蚕ぐ一柳のま中も二下程ハま並冷
しき日ハ暖なるあも蚕ぐ一温字つよき日ハ少
し冷しき所ハ並雲のかよひと入て加減まじ

業の紫何ぐ一財と子く蚕と喰まぶ一業節
も蚕不見合を後やど同のあハ此を用ゆ程あ
よそ色く此は法何り老生匠おあ志ハぐよ一
夫より一日に二夜ハ先の細紙築うそ蚕を
切度く池一是柳子あは入の植紙業一少そ蚕
の長くを乾ハかび少来ゆるためのは法なり
毎日業と何とあそ歩に若とす何そ蚕は厚紙
下を落さくハ死ハ並そ存業をむくは紙

小ゆりうけ喰まぐー若雨天津まき蚕十まり
ゆら蚕のうへふあつたより糖とありしづら
くまゆりうけまてまき素と喰まぐー是も
蚕と燥まらんがわん蚕出く四五日の間寒
暖の加減ありして大切なり是より七八日は
入りけきば後ま色まれ病となす能く大切
まき形りまき初畑の雨少風来まは一向ま
喰まぐー蚕消死まき心はまぐー又暖ま

おも熱し暑て八方へ風ぬまれ定と振し並水
内戸扉守自中中し雨の雪のがまひとて加
減まきまき一なり大まきまきまきまき
のちよりして蚕ま病出ま性悪くなる蚕
まままみみみみみみみみみみみみみみ
たさささ人まきほのま他まあまゆりまら
担し陽氣加減の家ままて遠まは能く考
棚板まおほくま並板のなく大切ま死板ま

柳木棚竹とも生发い懸し葎方より拵
へ乾し懸し

桑の若芽を以て蚕掃産は法の手

年よりよりて素芽吐ざらうらに蚕吐る事
ゆゑ素れ花と喰いとどどり素の紫は
葎を喰とどり窓初に素れ筋とどり細くに
きざらみ一歩四方目位の隙とてうらひ前の如く
種一枚の蚕は素紫の切形五六合程用意し

此とたる蚕れどは能く見合せより掛
糸付生とたる為き蚕素紫不取はるなり
是を細き箸よてうらふとらみ丸茶れ
窓より標と取りとらふと感と皮とをとり
此付種一枚の蚕丸を人四方位は茶のこく
く教ら懸し又紙よ取付たる蚕を是も
おれと懸し又紙よ取付たる
蚕は是より茶のみく裏より茶とて窓の中へ

おやほぐし 蒸を救多くつふぐし 蚕は海に
為くもれ 今の程よきぐし 蚕の若虫は出て
五六日 初旬よあぐし 糸を喰をふひしうあえ
又ハ蚕の厚用う家用 陽氣加減あきえ何
とも少く後沖ひあまきたらまら蚕は
しより性悪くあぐし 程陽守陰周陽必
よそ遠ひゆり陰周少く 暖氣と陰し 陽氣を
少く冷しくあぐし 毎糸を歩よ細き若

少て蚕をひしなまはなり 成り 並てそのうち糸を
喰をぐし 雨天の日は 高に糸を並て ぬ湿と除
ぬし 少て蚕出く 二日より 卵をけそて 糸のぬ
く 一日よ二三日 及び 細き若と 併て 蚕中と 切蚕
の厚き 糸と 厚き 糸と 併て 糸を 併て
糸を 併て 蚕生と 併て 四五日 月よは 糸を 併て
糸を 併て 糸を 併て 糸を 併て 糸を 併て
糸を 併て 糸を 併て 糸を 併て 糸を 併て

のしくして六七日までとて蚕少白色ふとせそ
るゆなり

叶時あきさき早稲あきさきのさりぬくと蚕種うごを
扱ま上か凡おほ五ご倍ばいおお用ようまま一いち蚕うごけけりりああ波なりり
ぬくとわわすす少すてて六ろく油ゆふふ碎くだききききとと粉こな茶ちや
篩ふる少すててとと一いち丸まるととりりたたるるをを又またささいいののよ
少すととをを一いち塊かたととままりり中ちゆう小せうななりり一いち事こととと
了りてて並な武ぶいいのの旨ひらああよよ蚕うごのの屋や丸まる取とりり一いちんん

只ただももああ日ひはは衣い素そ喰くをを前まへふふ波な細こううぬぬままりり
糖ねとと蚕うご上うへままりりととむむららくく能よくくふふううままりり
ううりりけけててままままのの切き粉こなととううけけかか減げんとと
喰くままぐぐ一いち粉こなののままりりをを何なんいい蚕うごぬぬとと焼やくひひ上上
へへぬぬけけ出で来きへへ運えんぶぶななりり但た解かいりり厚あつくくぬぬととふふ
れれをを蚕うごぬぬれれりりよよままりりみみ拵かてて上うへへへ出でびびかか減げんまま
ままりり其その日ひのの飲の素そをを喰くせせ少すくく向あとと並な丸まる取とりり
ううぬぬぐぐ一いち圓げんののままりりととあありり併あいいがが窓まどのの隅すみより

おぼろとて毒をゆかり乳印なる罍へ入替ぐ
此尻りの時延窓の才不替り〜毒は今
度酒通し至今も酒通し替へは度中
通ふ不替〜是窓の中と酒と替へるも
そ後の遠ひりる罍と一様不替んがたあ
初め〜と毒を入替なりをりぬるをひ
加減能るれをりか〜弱く奇妙は法方
は尻替の時楳と喰をなふに度喰せてお

尻尻に替て〜又毒紫なるに〜
居〜に替て〜
の延まで尻尻に替り度毎ふまりのぬは〜
度〜毒ひりげん前れ〜
尻替をぬるに延窓を〜
らど妙なり唯毒の交は板四府より朝五
つる色まどの毒は〜
よはひ火も〜

うち蚕よ素よりなり又毒もぬぐりて又炭
 火の煙がかんば遠くも春蚕の煙でぬぐりて
 蚕の風でぬぐりて了る事所の昔よりいづく
 なる我も治るを能くすべし戸の遠くは
 しぬぐりて遠くは風は遠くして
 きよのなり窓の窓よりか減らぐりて蚕
 ぬぐり七六日より十廿六日まで蚕母の蚕の傍と
 きづいの子屋に家の向きと歩幸事と

けしきよりおまへへ又氣れぬぬぬぬぬぬぬ
 きりぬぐりて方切なり
 蚕よ大小出来ざるん家の事
 蚕切きまの子れ時掃屋一掃をぬぐりて人四方の
 傍よせり油の尻とるるて生かすよんぬぬぬぬ
 くもる事性悪くなる概元より燈の一切の煙を
 少ても厚く掃きかきぬぐりて入も愛きさうや
 鳥の蚕よ枝枝おとさすぬぐりて一よよてなぬ

二反復者と云ふ所故大方は入りゆく葉の
うり根やぐ少じむりあて凍葉なるは蚕の吐ぬ
しく成大小は少なる也四方の口はと号之を
法と有りて是言せば中は種じあるる也
えり蚕は情を備ふる靈出にて尋たの虫は
ちづひを席と云ふはて葉もこりあはまれば
念ひ事づけをて法方妙方あり早く育る
虫よあははれを考へ法ら言と付葉のおひ

やうにむらるは種よまてしそ中よんをげし
き蚕もあれはまては種なる蚕も有るし波
厚固なる付は葉者なる蚕弱き蚕れよのかり
葉と吟よ在中に教きし弱き蚕を葉を
り何と云ふはあつしとよなるし蚕は
とゆ形を依てあつとなる蚕十分葉を念ひ
りよ教きしはは葉となる蚕漸印ありし
何しなる蚕葉と尋ねども容をや上なる蚕

吟をいへば糖や米沙り一葉は皆をほき流る
 とも肉付別をて弱に奄をぬくのみぶかりを
 所務性悪くなる根をて悔く六ヶ敷る
 了て大切の極中なり能くぬた
 揃どろふ蚕業は人の富よりて吾山を
 了てなればすもわのやも平竟に種
 吾無く何方れ切揃ふなり又年れとり
 守候より若山れ遠ひわれども是も何方

小よりて務者あふ了て墾に耕化れ厚も回
 豊年ハ運よれ人富のりき人共よと依
 一又凶年少ら一統小無化をて心あも
 其の中より入治者て実入の多少をなあり
 御もて天下少も隙なく人カれ若くひあ
 幸願其きり出理をてあもる人をもりよ
 佛歩ふのり存なき種をとうみ隣乃
 富とわく人と悔かあらあどをる人あり

之書よ云むがしより関末とて或人蚕は佃方と
たせしと云むく春の以種之種を同日小出し
そ後を家之三階温なるをそ佃ひそ後が
し暖ぬ佃戸とて佃ひ今そ後ハ産蚕の次
し佃所とて佃ひそあんそよ二階温なるを
少くそ佃ひし蚕とてそてそに生之次
の蚕より二四日中成又た

蚕の冷し佃戸とてそ佃ひし蚕は甚しき
日較も先の蚕より七八日中成何し中何し
やうそそ一が後二階の温なるをそそ
蚕の産の執より病つき候よあしなり候
ふ佃せり又佃戸とそ育し蚕も
是すしそそねが後冷し佃産敷しそ
蚕ハ何やど候し生そそそ
上作より然し蚕を冷しそそ増なるそそ後

その人必類なまじりすまるれとらりしるれの教のどくを
開ひきしてしとき音やとしる蚕子の内り
大は才の消し失せ又は残り蚕も性悪くぬりし事し
始はてより心未一年も上他とらりぬくるをはれ換
失しせしり所詮子所い蚕も應おせぬと代とお
初はめとどろ京子蚕業いおひてししる実聞て云ふ
津しと流と志ぬがかし保の出来もなりり
手し冷しくしりりとりとり細めり元未聞未筋を蚕

業まと筋と本最之一本家名好も行り
構へ寒れ開函自中にして風出入專陽氣の満ち
多く造るならぬものなりしるふおひて冷しく
して胸つ熱しや書しりのあん東園とて
冷しきしりりとしる冷等物をしるんとしとしる陽
守成て寒暖の加減い其家作ふ所はだらず
初はてはあらび冷しくさしぬがようとしる事
在蚕里子の中に字を所信をと死するありゆり

一蚕の性悪くなりしは此のゆゑなりて虫の
たぐひに過ある方好むものにて暖守るれど法虫れ
生れさうんじなりて花出る蚕も是ふあり
あゝ又一ツの秘事あり温字を好むとてむさ
くくはめれ氣のあはるはむして悪く只何と
なく此宗をもとむるなりて夜に陽守るる
肝要あり聖徳太子れまするも蚕は父母の
赤子とまらざるなり元より蚕は異國より

りて土地の差別よりどと澄きくは郷人
をどつて其教のどくをせしは果して其好ハ
年々上作せしむなり

蚕柳子の形紀子入の事

蚕柳子より七八日め以素と喰止り色く白
く頭始くくならざるを柳子の形体よりよけ付
居裏と記せしむる相ひ別五ツ付よ居るる死
智んくもあざ日れ在素喰をよすは其のゆく

早稲のまわりぬれ細る蚕のどよろろり
 桑の切粉をうり掛了り其の付の蚕皆上
 女桑よ運よるり二度桑を喰やそあれそく
 居裏れ皆了り此付と前よる窓の細通し居
 ころ蚕を中よる今まで中通よる今今
 へ繩よる今まで棚のよる置よる上
 下棚よる上棚よる上げ桑了り是も棚乃
 上下よる陽字か減遠よる是れはよく取替

くともよる蚕一調よる扱よるりさそ蚕棚よる
 体よるよる桑と一日よ七八度よりけ桑よる
 りよよる
桑を桑よるは桑桑よるは桑
 蚕桑のりよ眠了りて桑を喰やいとも是も採
 ど桑を喰切よる内よる桑よるけくより掛了
 け桑桑よるなる付と蚕よる掛にたる了りかく
 ころろりしりよ桑よる眠了り蚕上なるはと眠了り
 是と桑を喰よる桑桑のりよ起りのなる

そとりのあそびに起り一蚕入るを止す素とより
止す一此付大方まきき蚕入りとては素素を
より掛まは素を起より一蚕素喰らひ此素に
蚕は漸に眠ふたるとするら糸素とするを起
す一蚕二之度と素素と喰ひ貯るの喰むの
ころ素に蚕のたのし食止めよりよな大きき
痛じ一四なれ就痛みをは止め素のまわぐひ
より蚕ふ大小出来多かれ痛ひ物とすて大切の

半ありは付ゆる固くして蚕細くする物とたり小
たり此細の枚四ツ程用意して蚕の大サ小つん合
はやど目りよまを和ゆ此細のつひ方ハ蚕と
付眠す一此蚕のよ細を並に素の起り
細の目と使ぬやど小掛くあみれうまよりけ
まぐ一羽のどくまねが眠す一蚕ハ下す
くみねの眠らざる素に蚕を細れ目とくより
上なる素またより素成喰たりは付細の口方

と物上よりりし若し蚕と糸の区へとり奏
うゆき素と喰ひてしりしつりし眠蚕ハ少後
なる高紀五へ上げ起りよる給よとて了紗のめ
くさる付と物と糸蚕も早き蚕も一調よとく
揚るて是秘傳なり又細多紀園ハ素素乃
と糸蚕よとよとく眠る蚕子も糸よとハ
よ素とゆり止糸の区とて糸の蚕のうへに
そ糸たて四五本糸今ハ並園のそとを標に

若し蚕れ未眠らざるを細き糸とて拾ひ糸
又眠り蚕を言まるとあけ糸ハ終り糸成
眠る起るとて又標は拾ふ所を中れ救
多き糸目拾まして拾ひて糸を付
置あり四度の糸紀右目とて糸と
うよ中うに氣とけり完初の獅子の糸紀よ
了糸眠起糸乃糸紀中を右れ細を以て
揚る付糸の眠る糸とて拾ひ糸

て同くは青紗あつて半生法は房用と
まぐし厚絹よりぬが出少くして繭も少れを
作るぐし自由おられぬ糸細く糸はよく
て糸目少くしていぶん法上と書と吟せし蚕
まゆ大なりしと糸味まで多し

蚕棚之松並蚕風と種ふ事

蚕棚ハ園とてつろくの法法あり研糸して
よりしきし種ふ種し先書家よりぬが法風

大なる窓とつげ糸の窓多自中小さくし
風ぬきれ窓とつげ重て手れくいとるん時
さしれか織さぎ事身つ毛元より蚕い
百と好む陰虫なり戸とあけは蚕は居る
くちり中しと書きより風入り入る種
し列して初月の時松の間中して書ふ事
甚悪し松の深りかひさ降り拵しにかひ
たどぐ出来事しつり筵拵の物をも教

家内陽氣加減の手

蚕出さば常小我家の陽氣を考へ我が家の時
候給ふも季節よとては記すもまづ一山風
よそ冷きとありとも平島りをさすまづ一南風
にて暖なるは三方に戸を閉じまじ大よ口
あもむは方みも窓に高窓をむけて涼しき
風を今ぐまづと候も蚕出さば時は春
八十八おとりのとて高山よはあし一雪もあり又

蚕塾付は五月中のあなたり夏氣よさ
かり人の衣は一つは遠よなり家の陽氣を
考へ我が家の陽氣をよくおぼくまは育す
おれ肉の窓縁と接ると陽氣は取れぬと
あり又海よ戸とまはをるもよおれ戸とさ
まづはは條はよ戸とぬらしてはありの戸を
開けよとて陽氣をぬきよ遠よとては
家の陽氣をよく考へてか候もよりの要ん

寒氣を凌ぐ例の事

ひうー蚕掃之のころより寝れ居紙付をまて
天氣を凌ぐと日毎に風をくおる雪あらし
あどゆりて流氷蚕を消え捨せしころあり
其時わの園に至れば覺の人おそて重てひ
づりて家帳と用をいしし並に星をつりて
中よ棚とまおるゝ家内の人此中へ寝て暖
ふし又少しの炭をぬき金堂は紙帳とぬ

夕方の夕ぐさぐさ風と金ほりぬねよし
戸より風の出入程く加減し或は家内を
よちと焼をね紙油とつゝ音けふ流氷れ
蚕の或歩方すぬる忌せし衣素は流氷り素
て糸に並てちるをかりけ人のあふくもぬ死
てあひれきに利油と焼しとや平中書
蚕のなると委ふよりか功者れ出
なり但し平中へ炭火をくつり

蚕盛の付分霜雨と清く例の事

或年蚕那の付分より庭の紀まで日毎に大面
うらつぎは冷風をげしく清く蚕大元小
みしりりりそ付或里小亭蚕功者の人ありそ
家内三所ほどと焼き蚕の有る所は程々陽を
をどく千變万化して善いひらぬよあめは
いこまむま村一番れ上はせり清くは子孫とす
人皆感づらうとや

日晷言と防ぎ例の事

何とくも蚕庭をよりは外暑氣つくと南風を
やめきしりの雨と蚕大元小とみしりりり或年の
老人の月でがしり人なりがけ暑は格あるは
こしよも何のまじとと茶とめぐる大戸口小庭
善とせし外より内へて風を合ましりばは
人の帯をりしも暑よつとまじ上はせしりり
又或年庭部りより暑言もまじりく人守り

二十夜より廿三四夜喰ととりまうし空腹乃
加減素れ厚薄とておうしふま途あて

蚕の善悪并病見候の事

蚕採まより七八日め小柳子のあり素よなりと
上と知るべし一四六日め位小柳子れ素素よなりと
中ととて四日め位小柳子れ素素よなりと下と
ちるべし一柳子体の中小白記さあつて水出る蚕
おぼ座の糸記よりくぬぐ一是ハ冷たる蚕又

を暖るこころを蚕よのり

柳子の糸記とる糸よなり蚕のくは是ハ薄子乃
遠方より温風おりり又ハ毒よありし蚕を
ちるべし一蚕れ糸記糸の眠起不臥細き蚕多葉
素喰切悪くハ厚細を六粒ゆく悪記し
了又糸れ時ちけたる蚕多くあはる
よありしと知るべし又糸志くばりし蚕あり
是も所よりてあはる糸名あり是ハ空腹の

虫入あしく先ハ泣濕よりりし蚕より多く葉
 多かり又居麻よび出来たる蚕より多くりし
 虫より又蚕室の居り不多くを居りしり
 是も厚用少て少りしり病室の中此あふり
 風多暑濕よりりし蚕ありし云又六蚕の乳
 性云又雷雨多きり不ゆり多きり戸をさ
 くらぐ蚕のたより大毒よて是より多し此病と
 なる又居り不蚕に既成不赤色よなり葉食ふ

事進さふを初個の対此暖るし蚕又ハ蚊火の大
 乳より多りしり又蚕起りしり時移と此記
 けり蚕より是ハ葉の梅葉末なるれ或ハ本れ
 教も伸をりしり蚕の芥不南一疋より
 病出しし多し一初宅よて何ハ唯氣能きと
 一を撲いふるしハ不作ある年ハ何れ多
 一是ハ生葉に濕水南りしり知る一濕露一
 少火と燒もよるし此中蚕の病ひ多し一坐



干き
あつ
干き
干き

図

湯水
あつ
あつ

図

あつ

あつ
図

以下、皆切廻より入わしき糸を種元の
 糸より下丁に種元を吟味し洗ひ
 手種成りたる切廻方より扱のなる糸を
 方一之後の患は音より取り除く
 真綿仕立様の事
 去つた糸を丸くし記印しき繭を抽出し是を
 上灰汁にてよく煮まじり水に漬曝して灰汁を出
 一図の如く扱を引延し引延し掛るなり西

業るれど一日もならんを有べしと云ふ天神の教を
 畜てせよと大業之を歎虫魚草木も天地神明
 の恵よよりて生ゆ所此恩頼たれば返もおろと
 かよまてうぐす形も云ふとたれ利欲ののこりて
 人とあれ心ならんを天の神れゆやよ送ひ災害目
 前ふりぬて了形はけしむ直やして業とつと
 失を祈りずとも神やさんとの法信堂とて
 かんやせりん人の以理と毎へ根に妖治のらと伝

して慈下たつと

蚕の徳を福有と有り事

上野碓水郡小竹系とやうに人知やして父に

能も母小はくして考りなり元より家系一付

まば朝夕の輝とまの妻あも机室小若と

日とおろけり形てハ母をや一あよ小使もはき

をそりまゑり何ゆへにつくちやう農民の

大利をけんち蚕業とてくものち一何年出た蚕

此秘洲と云々母妻多し安穩よ善きせりやと
おのひまより終れ物よ素とく急迫をを々の功と
小たり蚕飼方の得失評判と見せりし事
日夜工まをま〜〜振りにして相立けり五
れりよて信長育の事傳とゆき年〜杉原氏
益〜年殺さるれらよ大坂よ業え山林田畑
夥〜く買求の上あり修むとて隠れなき事
お〜なかり是孝女の徳よよりてなせり所あり

天竺霖異大王の事

或書云昔天竺舊中國小霖異大王と云ふ有り后と
光契夫人と云ふ一人の姫有り金色姫と云ふ后覺
りよて後大王と云ふ后妃と具〜りよ此後姫ふ〜
姫と云く〜て父大王よ港云〜姫と椰子乳山よ
捨させよ然ふ天の加護〜や有けん恙なく〜
くて椰子小室と舊中國へ隔らせりよ周て又
鷹群山〜り所へ捨り〜は内多〜く鷹ども〜あり

愛知 県



1103290553



Handwritten blue ink signature or calligraphy

630
7
8

▲ 五五号